

会議録(速報版)は、暫定的なものであるため、正式な会議録とは一部異なり、今後訂正される場合があります。

正式な会議録は、調製後「会議録の検索と閲覧」に登載されます。

○中村亮彦君 皆さん、おはようございます。自由民主党・菊池郡区選出・中村亮彦でございます。

今日は、6月定例会の一般質問、これは先週の木曜日から始まりましたが、その最終日の最後の質問ということでこの栄誉をいただきました。議員の皆様方に心からまずは感謝を申し上げたいというふうに思います。大相撲でいきますと、千秋楽の結びの一番、優勝をかけた輪島と北の湖といったところかというふうに思います。

そのような緊張感を持って今日はやりたいというふうに思っておりますけれども、また、紅白歌合戦に例えますと、トリは北島三郎ということになります。北島三郎の代表曲は何かということを知られなくても、私は世代ではございませんので、よく分かりません。年配の議員の皆様方に後で詳しくお聞きをしたいというふうに思っておりますのでございますけれども、顔は吉幾三に似るとというようなことで、若いときから言われております。私も、これは認めておるところでございますけれども、ただ顔が似てるだけじゃなくて、何か一芸に秀でるようなそういう才能があればというふうに、いつも自分で思っておりますのでございますけれども、今でもまだ日々自分の中に眠る才能は一体何かというようなことを探している毎日でございます。

今日は、5問の質問がございますが、時間がありませんので、早速質問に入りたいというふうに思っておりますので、議員各位におかれましては最後まで御清聴、そして、知事をはじめ執行部の皆様方におかれましては、明快で前向きな御答弁をお願いいたしまして、最初の質問に入りたいと思います。

まずは、くまもとサイエンスパークの今後の進め方について質問をいたします。

県では、本年3月に、くまもとサイエンスパーク推進ビジョンを策定、公表されました。このビジョンは、知事がマニフェストに掲げた肝煎りの政策であり、我が地元菊陽町においても非常に期待が大きくなっております。

具体的な内容ですが、その基本理念として、分散型サイエンスパークを掲げており、新たに整備するイノベーション創発エリアを核として、必要な機能を複数の拠点で分担する形を目指していることが大きな特徴であります。

まず、分散型サイエンスパークについては、菊陽町が進める工業団地や原水駅周辺の土地区画整理事業もその拠点の一つとして位置づけられており、イノベーション創発エリアやほかの市町村の拠点との機能面での連携、さらには、道路ネットワークの整備を含めた拠点間のアクセス強化などが重要となっております。

また、今回のビジョンにおいて、もう一つ注目している点は、半導体関連産業の誘致のみならず、大学や研究機関の誘致を掲げている点であります。

菊陽町においても、原水駅を中心とした市街地整備において、知の集積を目指し、大学や企業の研究、サテライト施設などの誘致を目指しております。この菊陽町の知の集積の取組とイノベーション創

発エリアでの取組が補完関係となり、若者の県外流出の歯止めにもなるのではないかと考えております。

このように、半導体を核として、持続可能な地域の発展を目指す上で、人材の育成、確保は不可欠であり、ビジョンにも掲げる半導体人材のエコシステムを実現するためにも、菊陽町の取組とも連携を密にしながら、これまで以上に大学、研究機関の誘致に力を入れていただきたいと考えております。

私は、この分散型と大学、研究機関の誘致による人材育成という 2 つの方向性は、新たな視点であり、このビジョンの成功の鍵を握るものと考えております。このくまもとサイエンスパークを単なる企業誘致の戦略に終わらせず、従前より掲げている新大空港構想の理念を継承しつつ、菊陽町をはじめとする熊本都市圏の新たなまちづくりを実現させることが県全体の発展にもつながるものと考えております。

そこで、木村知事に質問をいたします。

改めて、知事のくまもとサイエンスパークにかける思いと、特に、分散型と大学、研究機関の誘致による人材育成に向けて、今後どのように取り組んでいかれるのか、お尋ねをいたします。

〔知事木村敬君登壇〕

○知事(木村敬君) お答えいたします。

私は、これまでの熊本の半導体関連産業の集積というこの強みと、そしてまた、本県への T S M C 進出という全国的にも歴史的にもまたとないこの希有な好機を生かして、このことをさらなる熊本の持続的な発展につなげていくため、くまもと版サイエンスパーク構想をマニフェストに掲げました。

そして、有識者や半導体関連企業の皆様、そして、周辺自治体の関係者の皆さんと、これまで議論を重ねまして、今年 3 月にくまもとサイエンスパーク推進ビジョンを策定し、皆様にお示ししたところでございます。

今後、このビジョンに沿って、さらなる半導体関連企業の集積はもちろん、地方からの新たな産業創出に向けた産学官連携拠点の整備や新たなまちづくりを進めることで、半導体の安定生産による経済安全保障への貢献のみならず、熊本の持続的な発展という地方創生の成功モデルの実現を目指していきたいと考えております。

ビジョンに掲げる取組の中でも、議員御指摘の分散型サイエンスパークと大学、研究機関の誘致による人材育成は、まさにこのビジョンの中核をなすものでございます。

分散型サイエンスパークに向けては、セミコンテクノパーク近隣エリアを中心に、自然環境との調和を図りながら、企業間、そして大学、研究機関との産学連携、菊陽町やそのほか周辺の自治体が進める住環境の充実など、様々な機能の有機的なつながりを目指しております。そして、それぞれが相乗効果を生み出すことで、地域全体の発展につなげていきたいと考えております。

分散型サイエンスパークの実現のためには、道路ネットワークの整備はもちろん、各拠点をつなぐ公共交通の強化も不可欠であると考えております。ビジョンにも掲げる J R 豊肥本線の輸送力強化や駅周辺環境の整備及び二次交通の充実など、地元市町、交通事業者などと連携しながら、具体的な検討を進

めてまいります。

また、大学、研究機関の誘致については、半導体人材育成に特化した世界に類を見ない大学または学部
の立地という高い目標をビジョンに掲げております。

今後、国内外の大学や研究機関などとも意見交換をしながら、誘致活動を進めてまいります。

さらに、ビジョンに掲げる新たな産学官連携拠点、イノベーション創発エリアの整備やパークマネジメント法人の設立に向けた取組を具体的に進めるため、パートナーとなる民間事業者の公募に向け、準備を現在進めているところでございます。

民間事業者の優れた知見やノウハウを最大限生かしながら、地元市町ともしっかりと連携し、具体的なサイエンスパークの姿が一日でも早くお示しできるよう、スピード感を持って取り組んでまいります。

以上でございます。

〔中村亮彦君登壇〕

○中村亮彦君 知事には、分散型サイエンスパークの実現や大学、研究機関の誘致について、具体的な取組をスピード感を持って進めるとの答弁をいただきました。

分散型サイエンスパークの実現のためには、拠点間の有機的なつながりが不可欠であり、特に、J R 豊肥本線の輸送力強化や二次交通の充実によるアクセスの強化は重要であります。

この取組は、市町村をまたぐ広域的なものとなりますので、県が主体となってスピード感を持ってしっかりと進めていただきたいと思います。そのためには、サイエンスパーク推進ビジョンに取り組む商工労働部のみならず、交通政策を担う企画振興部や土木部など関係各部が一体となって、オール県庁として、全力でこの取組を推進していただきたいと思いますと考えておるところでございます。

また、世界に類を見ない大学誘致につきましては、私が以前周辺に住んでおりました福岡県の新宮中央駅より南側にある駅周辺には、福岡工業大学や九州産業大学など多くの大学のキャンパスがありまして、多くの学生がJ Rを利用し、福岡県内外から通学をいたしております。ほかの地域に視察をした際にも、沿線上に大学のキャンパスがあることが多く見られました。

そのようなことを踏まえますと、大学のキャンパスは、各地域から人が集まりやすいJ R駅周辺での立地が適しているというのが私の考えでございます。

今後、国内外の大学や研究機関等とも意見交換をしながら、誘致活動を進めるとのことでございました。

例えば、菊陽町が計画しているJ R新駅周辺の知のエリアにキャンパスを誘致することで、県内各地から通うことができます。そして、空港からアクセス鉄道を使うとすぐというこの立地は、東京などから非常勤の教授を確保する上でも大きなメリットとなります。また、学生がそのキャンパスで学び、すぐ近くにあるセミコンテクノパーク内の半導体企業の協力により実習を受け、卒業後は、実習の協力を受けたJ A S Mやソニー、東京エレクトロンなどの企業に就職するといった、まさに半導体人材のエコシステムの仕組みを構築することができるというふうに思います。それこそが、世界に類を見ない大学

の設置と言えるのではないかと感じております。

県内では、高校卒業後、多くの若者たちが県外に流出をしていると聞きます。その歯止めにもなり、また、中九州横断道路整備後は、県南地域からもサイエンスパークへの通勤が可能となる、言わば、県内に住み続けながら学び、就職ができることになり、ひいては、TSMCの進出効果の県全体への波及にもつながると思います。

このくまもとサイエンスパーク推進ビジョンを通して、TSMCの立地によるプラスの効果を県内全体に波及させることで、この取組を地方創生の成功モデルとなるよう、積極的に推進をしていただきたいと思います。

また、知事におかれましては、新生シリコンアイランド九州、これに向けて、九州知事会の中でもいろんな御活躍の中だというふうに思います。知事におかれては、私は、九州のみならず、全国レベルでも最も碩学な知事であろうというふうに思っております。その矜持を持って、このサイエンスパークにもしっかりと取り組んでいただきたいと考えておるところでございます。

また、このように、TSMCの進出によりまして、九州フィナンシャルグループが、昨年、経済波及効果を試算いたしております。これは、向こう10年間で11.2兆円というふうに言われておりますけれども、この効果を最大限に、これから私たちは、この果実をもぎ取ってまいらなければなりません、そのためにも、様々な課題がございます。渋滞の問題であったり、あるいは地下水の質と量、それから農地の減少、また、地域の皆様方のこれから先の生活環境の変化、いろんな課題があるわけでございますけれども、その課題も解消してまいらなければなりません。

その一つとして、次の質問に入らせていただきたいと思います。渋滞のことに対して質問をさせていただきたいと思います。

セミコンテクノパーク周辺の渋滞対策ということで、これは、熊本県内、いろんなところに、熊本市中心に渋滞が起こっております。今日の質問は、このセミコンテクノパーク周辺の渋滞対策に絞って質問させていただきたいというふうに思います。

セミコンテクノパーク周辺においては、かねてから、朝夕の通通勤時間帯の交通渋滞が深刻であり、その解消が課題となっております。そのような中、TSMCの総会後のやり取りが報道され、改めて渋滞対策が浮き彫りとなりました。

県では、昨年6月に知事をトップとする熊本県渋滞解消推進本部を設置され、様々な取組を推進されており、これまでに、セミコンテクノパーク周辺を含む熊本都市圏において、今後取り組んでいく渋滞対策の方向性や目標が示されました。この中で、道路施策及び公共交通施策についても、短期、中期、長期における具体的対策が示されております。

このうち、セミコンテクノパーク周辺の道路整備については、国による中九州横断道路の整備に加え、合志インターアクセス道路の整備や大津植木線の多車線化に取り組むことが中期対策として示されております。工事は着実に進められており、大変心強く感じておりますが、その完成予定は令和10年度であり、まだまだ時間を要する状況であります。

そのため、渋滞の解消に向け、様々な取組を進めてまいらなければなりません。また、令和10年度の道路整備、いわゆるハード対策の完成後には、その効果を十分に感じられるようにしなければなりません。そのため、この4年間は、積極的にソフト対策に取り組む必要があると考えます。ソフト対策は、ハード対策に比べて柔軟性があることがメリットで、即効策として期待できると思います。ハード対策とソフト対策の両輪で渋滞対策に取り組むことで、相乗効果が生み出され、より効果的になると考えております。

セミコンテクノパーク周辺の企業では、敷地を従業員用駐車場として整備され、車通勤を前提としたところもあります。個別事情があるものと思われませんが、渋滞解消のためには、今後は、公共交通機関の充実を図りながら、車から公共交通へ転換を促していくことが必要だと考えております。

また、現在、交通渋滞が最も深刻なのは朝夕のピーク時であり、昼間の交通量はそれほどでもありません。このことを踏まえれば、通勤時間帯を分散させる取組も効果があると思われれます。

これからの取組については、これまで以上に企業の協力を得ながら、官民一体となって進めていくことが重要であると思われれます。そして、これらの取組も含め、様々な対策のスピードアップをし、その効果をなるべく目に見える形で周知していく必要があると思われれます。

そこで質問です。

冒頭にも触れたとおり、渋滞対策が注目される中で、改めて、今後の交通渋滞解消に向けた具体的な取組、特にソフト対策について、その効果をどのように示していくかについて、企画振興部長へお尋ねをいたします。

〔企画振興部長富永隼行君登壇〕

○企画振興部長(富永隼行君) セミコンテクノパーク周辺の渋滞対策については、ハード整備に加え、即効性の高いソフト対策も進めていく必要があると認識しています。

ソフト対策の一つとして、車から公共交通への転換を促す取組を進めています。

まず、JR原水駅とセミコンテクノパークを結ぶセミコン通勤バスの利用者について、令和6年度は、前年度比1.4倍の1日当たり1,400人となり、交通手段として定着しています。この4月には朝夕1便ずつ増便され、さらなる利便性の向上が図られました。

また、令和6年10月からは、JR肥後大津駅と本田技研工業株式会社熊本製作所を結ぶ通勤バスの実証運行を関係機関とともに実施しています。

さらに、これらと接続するJR豊肥本線については、これまで要望活動を行い、令和7年3月から、一部の便で、車両編成の2両から4両への増結や運行区間の光の森駅発着から肥後大津駅発着への延長など、輸送力が強化されました。

引き続き、需要に応じた柔軟な通勤バスの運行やJR九州への要望活動等を通じて、公共交通のさらなる利便性向上、公共交通への転換促進に取り組んでまいります。

また、議員御指摘のとおり、朝夕の通勤時間帯の交通量を分散することも効果があると考えます。昨年9月には、県と熊本市が連携し、時差出勤等の実施による職員の通勤時間の分散に取り組んだとこ

ろ、渋滞緩和に一定の効果が確認されました。

さらに、民間企業等を巻き込みながら、県民一丸となって時差出勤等に取り組むことで渋滞対策の効果を最大化するため、先月、熊本県渋滞対策パートナー登録制度を創設しました。

まずは、8月末までに200社の登録を目指しており、セミコンテックノパーク周辺企業を含む民間企業等にパートナーとして登録いただくことで、取組の拡大を促してまいります。

また、登録いただいた民間企業等とともに、9月には1万人規模のオフピーク通勤を行い、データに基づく検証と効果の見える化を図ります。

これらの取組を通じて、公共交通の利用や時差出勤等の通勤行動変容へのさらなる機運醸成を図るとともに、表彰制度の創設など、企業等の参画を促す新たな施策も進めてまいります。

今後も、全庁一丸となって即効性の高い対策を検討し、交通事業者や民間企業等とも連携しつつ、セミコンテックノパーク周辺の渋滞解消に向けて、データに基づく効果検証とその発信を行いながら、スピード感を持って取り組んでまいります。

〔中村亮彦君登壇〕

○中村亮彦君 渋滞対策について質問をさせていただきましたが、これは、質問の中でも申しましたとおり、ハードとソフトと両輪でやっていかねばなりません。今日は、ハードは聞かずに、ソフトのことで絞って質問させていただいたわけではありますが、このハードにおいては、質問の中で御紹介を申し上げましたとおり、まず大津植木線の多車線化、それから合志インターアクセス道路、そしてまた、通称菊陽空港線の延伸ということで、今、3つの道路が同時に進められている状況であります。

これに関しては、用地買収等々においても、地元の方々の協力を得ながら、本当に地元の方々が協力していただいて、そして、用地買収がスムーズにいったんというような報告を受けております。順調に進んでいるということでありましたので、これは、令和10年度に向けて、しっかり整備をしていただきたいというふうに思うし、また、これには、大変大きな期待もかかっているところでもあります。だから、ハード整備においては、あえて質問しませんでした。

ここからお姿は見えませんが、土木部の菰田部長が、今うんうんとうなずいていらっしゃるというふうに思います。見えなくても大体分かりますので。

ソフト対策については、富永部長に御答弁をいただいたわけであります。

公共交通への転換ということと、それから時差出勤ということ、もう一つ、実証中のパーク・アンド・バスライド、これも、実証中ではあるかもしれませんが、これから力を入れながら進めていただきたいというふうに思います。

また、時差出勤についても、昼間渋滞してないということ、これをもうぜひ、これはもうテーブルの土台の上に上げていただいて、そして、企業と本当に連携をしながら、企業に強くこれを申し上げていただきたいというふうに思います。

このソフト対策については、なかなか効果が見えにくいというようなところもありますので、こうやったからどれぐらい車の台数が減った、あるいは通行する車のスピードが、また10キロ上がった、20キ

ロ上がった、平均スピードで大体この渋滞は測っていきますけれども、そういうところも、どんどん住民の皆様方に示していただきたいというふうに思います。

ソフト対策が、もういろんな施策を打ちながら、これがどんどんどんどん成功して、ソフト対策だけで渋滞がなくなったなんていうことになると、今造っている3つの道路は要らないということになりますので。しかし、恐らくそこまではいかないというふうに思います。

これは、その道路が令和10年度にしっかり出来上がったときから、ソフト対策はそれから先も続くわけでありますから、これは、道路ができたから終わりではありませんので、今のうちに確立しておく必要があるというふうに思っておりますので、しっかりと進めていただきたいというふうに感じるところでございます。

次の質問に参ります。

熊本セミコン特定公共下水道の整備について質問をいたします。

下水道は、地下に埋設されるため、その存在が目立つものではありませんが、道路同様、半導体企業の集積に必要となる重要なインフラであると認識をいたしております。

そこで、半導体関連産業の集積に伴い増加する工場排水対策として計画された熊本セミコン特定公共下水道についてお尋ねをいたします。

これまで、対象とする区域や地形、周辺環境や放流先などを総合的に検討した上で事業計画を策定し、3月に都市計画決定の手続きを終え、いよいよ事業が本格的に動き始めたという印象を持っております。

一方で、セミコンテクノパーク周辺では、渋滞対策として、大津植木線や合志インターアクセス道路などの事業が進んでおり、大津植木線多車線化工事については、令和10年度の完成を目指して、用地取得が完了した区間から工事の発注が始まっております。

特定公共下水道の工場と処理場を結ぶ管路は、大津植木線に埋設されることになり、これから設計が行われるものと認識をいたしております。道路工事完成後に、管路の新設工事により道路を掘り起こすということになれば、大津植木線の供用開始時期に影響が及ぶだけでなく、現道の交通規制によるさらなる渋滞悪化を招くことを懸念いたしております。

そこでまず、整備の進捗状況と管路の新設工事に伴う多車線化工事への影響にはどのようなものがあり、それにどのように対応していくのか、お尋ねをいたします。

また、セミコンテクノパーク周辺においては、今後も企業の立地が進むことが考えられますが、排水の受入れ環境の整備が遅れるようなことがあれば、企業進出の妨げになることを懸念いたしております。

将来、工場進出がさらに進んだ場合、現在計画している熊本セミコン特定公共下水道は、今後進出する企業からの排出に対してどの程度対応できるのか、土木部長にお尋ねをいたします。

〔土木部長菰田武志君登壇〕

○土木部長(菰田武志君) まず、特定公共下水道の整備の進捗状況と道路の多車線化工事への影響につ

いてお答えします。

熊本セミコン特定公共下水道については、新たに国に創設いただいた交付金を活用し、現在建設中のソニーの新工場と年内着工予定のJASM第2工場の排水を処理するものです。

下水道施設の整備に当たっては、今年度から管路の布設工事に着手する予定であり、今後工事が本格化していきます。

議員御指摘のとおり、JASMから新たな処理場まで布設する管路は、既に工事の準備段階にある県道大津植木線の多車線化区間と重複するルートとなっています。

そのため、現在、道路と下水道工事に係る調整会議を重ねており、影響の最小化に向けて、相互の工事に手戻りが生じないように、一体的な工程計画を立て、着実に進捗させ、しっかりと取り組んでまいります。

次に、今後進出する工場からの排水への対応についてお答えします。

一般的に、工場からの排水先は、立地場所や排水量、また、接続する下水道施設の処理容量等の諸条件を踏まえて、企業と下水道を管理する自治体等が協議を行い、決定します。

セミコンテクノパーク周辺では、既存の下水道施設の容量を考慮した場合、熊本セミコン特定公共下水道が受入先となる可能性は高いと考えています。

なお、最終的な下水道施設の容量は、現時点では決定していませんが、県としては、処理施設を段階的に増設することにより、今後の企業進出にも適切に対応してまいりたいと考えております。

今後も、周辺自治体や関係部局と連携し、企業進出等の情報を的確に把握するとともに、熊本セミコン特定公共下水道の一日も早い完成に向けて、全力で取り組んでまいります。

〔中村亮彦君登壇〕

○中村亮彦君 特定公共下水道の整備について質問させていただきましたが、進捗状況としては、3月の都市計画審議会が通った後に、もうこれは、急激に本当に進み始めたなというふうに思っております。住民説明会を経て、これからますます本格化していくものというふうに思います。

また、都市計画審議会の私も委員でありますので、これには出席して詳しく説明を受けたところでありますが、処理施設は、集積地から排水を受ける管路とそれから排出する——恐らく白川になるんだろうと思いますけれども、排出する管路とありまして、これは、総延長距離、相当長いものがあります。ほとんどが幹線道路の下を下水道がくぐっていくというような状況になるわけですが、今回、この大津植木線の多車線化と受入れ側の管路なんですけど、これは、大津植木線の多車線化と重なるんですね。先ほどの質問でも言いましたが、これはR10年度にはもう完成すると。そして、もう供用開始されるというような状況でございます。

これも相当急ぐ工事になるんだろうというふうに思うんですね。ありがたいことに、地元の皆さんが協力していただいて、土地を提供していただいて、今まさにスムーズに進んでいるということですが、ここに、下水道と一緒に、同時期に工事になるんだろうというふうに思います。

答弁の中では、この工事への影響のことについて、私もこれは本当に聞きたかったことなんですけど、

工事が手戻りなくということで、土木部内で協議をしながら、これから連携しながらやっていかれるんだというふうに思いますけれども、手戻りなくといいますと、一回やった道路をもう一回ほじくると。それから管路を入れるということになる、ということだけではなくて、これは逆に手待ちになるんじゃないかなというふうに私は思っているんです。下水道が終わるまで道路がなかなか進まないというようなことがあるのではないかなというようにところも、ちょっと懸念をいたしております。

詳しく言いますと、TSMCの第1工場があります。あの道路の恐らく南側をずっと買収していきながら工事を進めていくんだろうというふうに思います。それをある程度過ぎていきますと、処理場に近づいていきますと、これは、右、左両方買うというようなことになりますから、どこを通るかは不明でありますけれども、その長い距離の中で交差点もできます。大きい交差点だけでも3つあるわけございまして、その交差点の工事をするときは、道路の場合は切り替えて、交通の妨げにならないようにやっていくんだろうというふうに思いますけれども、それと一緒に、この下水道の工事を埋設していかなければならないということになりますと、これは、大変時間のない中で、相当な連携が必要なんだろうというふうに思ったわけであります。

これは、縦割りとかいろいろそういうことじゃなくて、もう土木部内で協議されることだろうというふうに思いますので、先ほどの答弁のとおり、進捗するようにしっかりと取り組んでまいりたいということでもございましたので、そのまましっかりとこの工事の整備については行っていただきたいというふうに思っておるところであります。また、下水処理施設の能力の話なんですけど、これは、恐らく多くの企業が今から、そのサプライ企業も含めて、そこに張りついた場合に、そこから出てくるその排水をしっかりと受け入れることができるのかという質問をさせていただきましたけれども、これはできてからですね。

それから、企業の進出度合いというのもまだ未知数でありますから、それは分からないんですけども、これに対しては、段階的に増設するというようなことであります。だから、建物に対して大分土地も広いんだなというふうに私も感じたところでもありますけれども、しっかり前を向いて、そういうことがあったときに対応ができるような施策の中で、この処理場を決定したんだろうというふうに思いますので、しっかりとここも対応していただきたいというふうに考えるところでございます。

それでは、次の質問に入ります。

県立高校における半導体人材育成とキャリア教育について質問をさせていただきます。

令和3年に、世界最大手のファウンドリーであるTSMCが日本初の工場を熊本に建設することを発表し、昨年12月から本格稼働を始めました。まさに今、本県は、半導体関連企業の集積地として全国的にも注目を集めております。

令和7年3月に改定されたくまもと半導体産業推進ビジョンでは、今後の10年間を見据えた成長戦略が示されており、熊本が「世界に半導体を供給し続ける拠点」「半導体人材が集う拠点」「半導体を核とした産業創出拠点」となることを目指していると明記されております。

また、このビジョンでは、県内の大学、高専、高校卒業生の県内半導体関連企業への就職者数について

て、現状値である2021年度270人の就職者数を、2032年度には500人以上へと目標値が倍増されております。

熊本労働局の令和7年3月新規高等学校卒業予定者の職業紹介状況によると、県内の求人倍率は4.30倍であり、平成2年度の統計開始以来、過去最高の数値となっております。企業側は、深刻な人材不足に直面しており、特に半導体関連企業からは、高校生の段階から業界に関心を持ってもらいたい、地元で育った人材に地元で活躍してほしいといった声が寄せられております。

このように、高校生への期待も高まっているわけではありますが、その進路選択においては、当然のことですが、本人の主体的な意思決定が何よりも尊重されるべきであります。

高校生が自分の将来を考えていくとき、やりがいを持って働けるたくさんの企業があり、働きやすい環境も整えられている熊本県を取り巻く現状は、高校生にとってもチャンスであると考えております。

このような状況において、高校生が半導体関連産業をはじめとした熊本県を支える産業について知り、理解を深め、自分の将来をしっかりと考えるキャリア教育を実現することが大切だと思われます。そして、そのような取組の結果として、熊本県で働きたいと思う高校生が増えていくことが、産業界だけでなく、高校生にとっても、そして本県にとっても必要であると考えます。

そこで質問です。

熊本県の半導体関連産業の現状に対するキャリア教育の充実についてどのように考え、どのような取組をなされるか、教育長にお尋ねをいたします。

〔教育長越猪浩樹君登壇〕

○教育長(越猪浩樹君) 本県は、TSMCの進出を契機に、半導体関連企業の集積地として、全国的な注目を集めており、半導体関連産業の担い手としての県内の高校生に対する期待も大変高まっております。

このような中、県教育委員会では、昨年度から県立高校半導体関連人材育成事業を立ち上げ、県立高校50校全てを対象に、企業見学やエンジニアによる出前講座、さらには、本県独自の半導体に関する学習テキストの開発、配布などに取り組むとともに、本年4月には、水俣高校に全国初となる半導体情報科を開設したところです。また、多くの工業系の生徒も、教育課程の中で半導体について学んでおります。

議員御指摘のとおり、高校生の進路選択は、生徒自らが将来を見据えて主体的に判断すべきものであり、高校段階におけるキャリア教育においては、その意思決定を支えることが重要だと考えています。

そこで、本年度は、企業と学校をつなぐキャリアサポーターを増員し、高校生が半導体関連企業をはじめ県内企業等を知る機会をこれまで以上に創出するなど、キャリア教育の充実に取り組んでいるところです。

また、水俣高校半導体情報科の生徒については、現在、地元の半導体関連企業と連携し、実際の施設、設備を活用した実習や出前授業など、より実践的な学びの充実に取り組んでいます。今後、さらに専門的かつ高度な学びを提供できるよう、熊本大学や県立技術短期大学校との連携も進めていく予定です。

す。

また、本年2月、産学官金が連携し、半導体産業の持続可能な発展等につなげるため発足した半導体グリーンイノベーション協議会では、生徒や教師を対象とした工場見学や講師派遣事業が計画されるなど、産業界と高校が連携して半導体を支える未来の人材育成に取り組む機運も高まっております。

今後も引き続き、関係部局や地域産業界等と連携を図りながら、県立高校における半導体人材育成の充実に努めてまいります。

〔中村亮彦君登壇〕

○中村亮彦君 県内の高校生にキャリア教育として半導体の知識、あるいは興味を持っていただくような、そういう機会をどんどんどんどん増やしてほしいと思ひまして、今回は、この質問をさせていただいたわけでありす。

質問の中で言ひましたように、今、高校生の求人倍率は4.30倍ということでありす。もう企業側としては、人材不足と、これに悩まされているということでありすけれども、あるいは高校生をはじめ、これは大学生もそうなんだろうというふうに思ひすけれども、就職しようとする側からすれば、これはもう物すごい売手市場だということでありす。

なかなか、先ほどの質問では、平成2年から統計を取った中で最高ということでありすけれども、実際、人材不足といひすか、就職する側の売手市場というようなことについては、非常に、これまで1を下回って、もうみんな苦勞しとった時代がずっとあったわけでありすけれども、実は、前にもあったんです。私が高校を卒業するとき、これは1985年でありました。1985年、後にバブル経済と言われる時代に突入する、いわゆる元年と言われた年でありす。

バブル経済って、後からできた言葉でありすけれども、その中では、ただ景気がいいということでありすけれども、じゃあ、いつ始まって、いつ終わったかということでありすけれども、これは、大体皆、80年代後半から90年代前半というふうに言われております。

そういうことでありすから、私たちは、バブル世代というふうに言われておりました。このバブル世代というのは、あまりいい言葉ではなくて、いっぱいいろんな就職先もあるし、世の中は好景気だしというような時代でありました。

1985年、どんなことがその当時あったかということになりますと、日航機の羽田から伊丹に向かう便が群馬県の御巣鷹山に墜落したというのが、この年の8月でありす。私は夏休みでありましたので、よくこれは覚えているところでありす。

それから、阪神タイガースの20年ぶりの日本一というのも、この1985年でありました。3番掛布、4番バース、そして5番岡田というこのバックスクリーン3連発というのも、皆さん記憶に新しいことかというふうに思ひす。これも、1985年の4月17日、阪神甲子園球場での7回裏の出来事でありました。

これは、質問に関係ありませんので、議長から注意がある前に、このキャリア教育について、教育長にまたお願いも申し上げたいというふうに思ひすのでありすけれども、これは、半導体に興味を持

って、そして、これは、工業系の高校生だけではなくて、普通科系の高校生においても、これからどういう道に進もうかと、あるいは半導体の会社に就職しようか、これも4.3倍ありますから、もう行けないこともない。

そしてまた、じゃあ、半導体を今度設計するような、そういう職に就きたいということであれば、もう少し高度な知識が要りますので、それだったら理学部系、あるいは工学部系に進もうか、あるいは、もうすぐに働きたいからと言って、今度は、ラインのところの募集にかかって、そこで仕事をするというような、こういうチャンスが大変多くあるわけであります。ですから、高校生のときに、きっかけにまず気づくということが私は大変大事なことなんだろうというふうに思います。

これは、県立高校の高校生に冊子で紹介をされているということでありました。私は、その冊子を見させていただきましたけれども、非常に興味深くて、本当半導体って難しいんだなというふうに思うんですが、そんなことも感じさせないような、カラフルで——漫画じゃありませんけれども、そういうものでありました。ですから、そういうことで、しっかりと普及して広めていただきたいというふうにも思います。

水俣高校の半導体情報科につきましてでありますけれども、本年開設されたということであります。これは、水俣高校のこの半導体情報科においては、企業と連携しております。私も、その企業、アスカインデックスであります。ここにも視察をさせていただいたことがありますけれども、本当に企業で体験をすると、どういうものか分かるぐらいでも、やっぱり興味の持ち方は大分違うんだというふうに思います。

ただ、この半導体情報科においては、入学者数が大変少なかったということであります。ということになるならば、もう高校生ではなくて、中学生のときからそこも植え付けていかねばならないのかなということも感じるわけでありますけれども、子供たちがそれぞれの自分が思う道に、そして進んで、そこで働いて、生計を立てて、そしてまた家庭を持って、そうしたら家庭が安定します。そして、いろんなことにも挑戦ができる、そういう豊かな人生を歩んでいただきたい。そのためには、多感なこの高校時代をいろんな情報の中で自分で進路を選べる、そのような高校生の教育に取り組んでいただきたいと考えておるところであります。

私立の無償化とかいろいろあって、県立高校も大変なときを迎えます。ということになれば、半導体が、これから世界でますます飛躍する、そういう産業になることを踏まえれば、そこも教育長のほうからいろんな——今度新任なされたということですので、今もうまさにパワフルに張り切っておられるところだというふうに思いますので、しっかりとリーダーシップを持ってやっていただきたいというふうに思うところであります。

最後の質問をさせていただきます。

在留外国人に対する交通安全対策等について質問をさせていただきます。

全国的に、海外で取得した運転免許証を日本の運転免許証に切り替える、いわゆる外国免許切替え者、通称外免切替えで免許を取得した外国人による交通事故が増加しているとの報道がなされておま

す。先月1か月間だけでも、5月14日に埼玉県で起きた小学生ひき逃げ事件や、5月18日の三重県の新名神高速道路での逆走による多重事故が発生をいたしております。

このような状況を受け、外免切替えの在り方等についても、国のほうで検討を開始されていると伺っております。

現在、全国的に観光や就労の目的で来日される外国人が急増しており、本県も同様の傾向にあります。さらに、本県特有の事情として、セミコンテクノパーク周辺などをはじめとした半導体関連企業の集積に伴うビジネス目的の来日など、今後、本県に定住される外国人の方が増えることが予想されます。実際に県内の在住外国人の数は、年々増えており、昨年6月末時点で2万7,407人と過去最高となり、本県は伸び率も全国1位と報道されております。

このような現状において、昨今の外国人による交通事故等の報道を受け、不安を感じている県民も多いと思われます。このため、在留外国人に日本での交通ルールを理解してもらい、全ての県民が事故を起こさない、交通事故に遭わない、安心、安全な交通環境を構築することは、県として重要な責務であると考えております。

そこで質問です。

まず、熊本県における外免切替えの件数及び外国人の交通事故発生状況について伺います。

また、これまで、県警察として、在留外国人に対する交通安全対策についてどのように取り組んでこられたのか。

さらに、今後ますます増加が予想される在留外国人に対する交通安全対策についてどのように取り組まれるのか、警察本部長にお伺いをいたします。

〔警察本部長佐藤昭一君登壇〕

○警察本部長(佐藤昭一君) 外国免許切替え、いわゆる外免切替え制度につきましては、警察庁において、申請者の住所を確認する方法、交通ルール等の知識、技能の確認方法等について現在見直しが進められているものと承知しておりまして、県警察といたしましては、その方針が示された際は、適切に対応してまいります。

議員お尋ねの熊本県における外免切替え件数につきましては、令和元年から令和4年は年間200件から300件台でありましたが、令和5年は592件に増加し、令和6年には1,224件と倍増しております。

次に、外国籍の方が関与する交通事故の発生状況につきましては、令和元年は55件、コロナ禍にあった令和2年から令和4年は年間30件から40件でありましたが、令和5年は51件、令和6年は50件と、コロナ禍以前の水準に戻りつつあります。

なお、令和6年の統計を令和元年と比較しますと、外免切替え件数は約3.6倍となっているのに対し、外国籍当事者が関与する交通事故は、ほぼ横ばいとなっております。

県警察では、これまで企業等と連携して在留外国人に対する交通安全教育を推進しており、令和6年は、73回、1,027人に対して実施しております。

議員御指摘のとおり、今後、外国人運転者の一層の増加が見込まれますので、自治体や企業と連携し

た交通安全教育をさらに活性化させるほか、外免切替えの際の運転免許センターでの交通安全教育と外国語で記載した交通ルール冊子の配布、外国語で記載した交通安全教育チラシの活用、SNSや交通情報板における交通安全の呼びかけなど、あらゆる手段で対策を強化してまいります。

〔中村亮彦君登壇〕

○中村亮彦君 外免切替えについて質問をいたしました。また、在留外国人の方々の交通事故の件数もお伺いしたところでありますが、外免切替えの数は、令和4年、5年、6年と倍々ということになっております。

6年度は1,200数十件ということでございましたので、もう間違いなくこれは増えているということも、ここで明らかになるわけでありますけれども、その中で、住んでいる外国人の方も多いわけです。住んでいる外国人の方は、インバウンドの外国人の方と違って、レンタカーではなくて、自家用車でこの熊本県内を走行されるということになります。

ワイドショーなんかで、よく逆走があったりとか、先ほど紹介したのは、逆走とひき逃げでありましたけれども、こういうことに関しましては、運転しにくい、例えば右ハンドル、左ハンドルの違いがあります。それから、国によっては、右走行、左走行というのもありますので、非常に、日本に来て外免切替えしたからといって、さっとそこから出ていってスムーズに運転できるかということ、どうなのかなという印象も持っております。

ただ、その切替えの数は約3.6倍になったけれども、事故の件数は横ばいというような御答弁でございました。横ばいとなりますと、外免切替えは増えたけれども、事故は横ばいということになりますと、安全に運転してるじゃないかということになるというふうに思うんですが、これは、県警察が把握しているのは、人身事故の数なんだと思います。これは、物損事故はそこに含まれておりませんから、物損事故になりますと、ごつつと当たった、当たって逃げたは捕まりました、そういうことがありますので、その数は恐らく入っていないんだというふうに思いますので、小さな事故であったり、そういうことに関しては数に含まれていませんから、果たして、これは安心していいのかどうかという疑問はまだ残るわけであります。

そしてまた、ワイドショーなんかで、どんどんそういうのが報道されますので、やっぱり県民の皆さんは不安がっていらっしゃると思います。それは、東京、大阪、名古屋の都市圏だけではなくて、外国人が増えているのは、ほかの都市圏もあるかもしれませんが、その三大都市圏だけではなくて、この熊本は、外国人の方々、これからここに移住されて住んでいかれる、そして、車の免許を切り替えて乗っていかれるという数が、恐らく物すごく多いんだというふうに思うんです。

東京から西日本に行きますと、広島や福岡を経て熊本、もしくは北に行きますと、宮城県の仙台、北海道の札幌という大都市がありますけれども、もうどうかしたら大都市を飛び越えて、熊本のほうに在留外国人の方が急激に増えるというようなことがあるんだというふうに思います。

そのことも念頭に入れて、これからの外免切替えであったり、あるいは、これから外国人の方々への交通ルールの指導、この辺も力を入れてやっていただきたいというふうに思います。

であれば、じゃあ、日本人がちゃんと交通ルールを守って、しっかり外国人に負けないように安全運転を心がけているかと言われますと、やっぱり日本人でも高速道路を逆走したり、あるいは、御高齢の方がコンビニのガラスに突っ込んだりというようなこともあるわけであります。

ですから、これは、私たちが住んでいるこの日本、そして、外国から来られる方々と課題を共有しながら、しっかりと交通安全に努めてまいらなければならないと私も改めて思うわけでございます。

今日は最後の質問ということでございましたので、私が今日ここに質問する前に、議員の方、10名の方が一般質問を、多種多様な御意見をここで述べられました。そして、熱意ある白熱した議論がなされたわけであります。それを私は汚さぬようにと、しっかりと皆さんの期待に応えられるように、今日は一般質問をさせていただいたわけでございますけれども、自分なりには、期待に応えられたんではないかというようなことで、大変満足をいたしておるところでございます。

議員皆様におかれましては、最後まで御清聴、誠にありがとうございました。(拍手)